

全国読書マラソン
コメント大賞

第1回

金賞受賞作品

金賞

プラネタリウムのふたご

いしいしんじ著

講談社文庫 税込価格 792 円

だまされるには才覚がいるのです。

たとえば、プラネタリウムは本当の星じゃありません。手品は必ずネタがあって、決して魔法じゃありません。小説だって実在する人達の話じゃなかったりします。でもこの世に、本当のことっていくつあるのでしょうか。人はみんなそれぞれ「本当」を持っていて、それをつなぎ合って、世界をつくっているのではないのでしょうか。だましあい、だまされあって、人は生きているのです。だまされる才覚とは、つまり「信じられる」才覚なのでしょう。どうぞ、だまされてください。そうして得る、「感動」は「本当」です。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第2回

金賞受賞作品

金賞

星の王子さま

サンテグジュペリ著

集英社文庫 税込価格 421 円

前略、星の王子さま。

あなたと会って、初めて、文字ではないもので本を読んだ気がします。もしこの世界から、目で見たり手で触れたりできるものが全て消えたとしたら、その中でまだ残っている「私」が、本の中であなたと出会ったのです。

ありがとう。

あなたと出会ったおかげで、家族や友人、大切な人を大切だと思う気持ちの優しさに気付きました。

大切だと、思える幸せを知りました。

草々 一読者

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第3回

金賞受賞作品

金賞

ぜつぼう

本谷有希子著

講談社 税込価格 1,512 円

反復しすぎた絶望は、「絶望」たりうるんか。

主人公・戸越は絶望しすぎたために「絶望的な自分」をアイデンティティにしてしまう。

そして、それを失いそうになると、自ら絶望的状况に邁進するのだ。

その様子はさながら**人生を賭してのギャグ！！**

かつて、落ち込んでいた私にこの本を渡したい。

戸越を笑うためではなく、不幸を嘆く自分に酔っていた自身を笑うために。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第4回

金賞受賞作品

金賞

悪童日記

アゴタ・クリストフ著、堀茂樹 訳

ハヤカワ epi 文庫 税込価格 713 円

戦争を題材にした作品の「暗さ」に悪い意味で馴れっこになってしまっている私にとって、衝撃的なほどビッドで、面白くて（本当にニヤリとしてしまった）、記憶に残る本だった。

読み終えて感じるのは、こんな痛ましい戦争より遅く生きている早熟で聡い双子に対する畏怖ーと、書きかけて八々と立ち止まる。双子もまた将校に救われたのではなかったか。ならば戦争の中で生き延びたことは僥倖にすぎなかったのか。どうやら単純に感想を語ろうとすると、あの悪賢い双子に邪魔されてしまうらしい。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第5回 金賞受賞作品

金賞

風に舞いあがるビニールシート

森絵都 著

文春文庫 税込価格 605 円

時折、いつまでも心に残って離れないことばに出会うことがある。

情景がぱっと目に浮かび、それだけでなく匂いや感触もあり、比喻としてぴったりなことば。「風に舞いあがるビニールシート」とは、秀逸だ。

「人の命は地球よりも重い」そんなことばに大きな違和感を抱いていたころ、ある本でこんな考え方に会った。人の命は軽くて小さい。軽くて、ちっぽけで、すぐ壊れてしまうからこそ、大切にしなければならないのだ、と。エドも、そんな使命感を持っていたのだろう。「風に舞いあがるビニールシート」を、いつまでも必死に押さえながらー。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第6回 金賞受賞作品

金賞

あしたはうんと遠くへいこう

角田光代 著

角川文庫 税込価格 473 円

私はこの女が嫌いだ。

小説の主人公にあるまじきアンポンタン。どーしようもない男達に、どーしようもないほど惚れて、利用し、利用され、愛されたいよ、褒められたいよ、と必死に叫ぶ。誰から見ても愚かな子だ。それなのに、この物語の最後、私は不覚にも涙した。一緒だったから。

私だって願っているのだ。自分でも驚くほどに誰かを好きになった時、「すごいな、おい」を笑える日が来ることを。

あるいはその台詞を愛する人から聞くことを。

訂正する。これは誰かと誰かの恋愛小説じゃない。私とあなたの自伝でもあるのだ。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第7回 金賞受賞作品

金賞

もの食う人びと

辺見庸 著

角川文庫 税込価格 778 円

「おなか空いたな」そう思ったとき、少しお金を出せばおいしいものがすぐに手に入る。しかし、それが“当たり前”であるのは、世界から見たら圧倒的少数派なのだ。

最初は、どんなおいしい「食」体験記だろうとお菓子片手に軽い気持ちで読み始めた。しかし残飯を売り物にしたビジネスが成立しているバングラディッシュの話を読み、その手はすぐに止まった。

その後のどの話でも「食」から垣間見える民族や文化、価値観の違いによる争いや対立が克明に記録されており、ぐいぐい引き込まれた。

私たちは好きなものが好きなだけ食べられるこの平和な日常に、もっと感謝すべきだ。

本を閉じた後、まずは夕食を味わって食べようと思った。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第8回 金賞受賞作品

金賞

県庁おもてなし課

有川浩 著

角川文庫 税込価格 761 円

新幹線はない。地下鉄はない。モノレールも走ってない。

このあと「ない」のオンパレード。そして最後に、「**けど、光はある!**」

この本の内容もまさにそこに収束される。つまり、発想の転換。自分の身近にありすぎて気づかない珍しさを発見する。「当たりまえ」に隠れた非日常をとりあげる。これって、私たちの生活でも同じかもしれない。

いつもと変わらない大学生活。でも、よく考えてみると、どこにでも変化はある。つまり、大学生活と嘆くよりも、発想の転換で少しでも面白みを見出す方が遙かに有意義ではないか？

金はない。空きコマはない。彼氏もない。

けど・・・の先は、自分次第。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第9回 金賞受賞作品

金賞

キケン

有川浩 著

角川文庫 税込価格 648 円

この本**キケン**です！青春やり直したくなっちゃうから。

この本**キケン**です！本気でバカになる楽しさ知っちゃうから。

この本**キケン**です！最高の仲間を見つけたくなくなっちゃうから。

上野が火をつけたのは、爆弾だけじゃない。読んだ人の心なんだ。

本を閉じたら、思わずどこかに、何かに突っ走りたくなる。もちろん、仲間と一緒にね。

長くて短い、下手したら一瞬で終わってしまいそうな大学生活。どうせなら、彼らみ

たいに**キケン**なくらい刺激的な日々を送らなきゃ損じゃない？

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第10回 金賞受賞作品

金賞

蝶々の纏足／風葬の教室

山田詠美 著

新潮文庫 税込価格 562 円

少女は純粹無垢なものだと誰が決めたのだろう。本作に登場する”子ども”は皆、自分勝手な身体をもつ”人間”であり、それは親切の裏に憎しみを、笑い声の裏に残酷さを隠しもっては日常を生き抜いてきた”子ども”だった私たちを浮き彫りにする。

けれども私はむしろ、その生々しさに呼吸が楽になるのだ。

それはまるで、一枚一枚丁寧に服を脱がされるような、美しさと潔さをもった真実の暴き方だから。

牢獄のような教室のなかで、”子ども”を演じていた全ての人へ、私はこの本を贈りたい。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第11回 金賞受賞作品

金賞

方丈記 ほうじょうき

鴨長明 著

ちくま学芸文庫 税込価格 1,080 円

スクエアハウスじいさん。これはどんなお話だと思うだろうか。四角い家に住むおじいさんの話？そう、それこそが「方丈記」だ。

「方丈記」は鴨長明が約 800 年前に書いた随筆である。古典の随筆をいうと、筆者の個人体験についてあれやこれや書き連ねているイメージがあるが、「方丈記」はそうではない。彼が多く取り上げたのは、当時起こった災害である。800 年以上前に災害に直面した人々の姿が克明に描かれており、さながらニュースのレポートを聞いているかのようだ。日本は今も昔も災害大国だ。それが身に染みてわかる。

スクエアハウスじいさんの名りレポート。災害を今経験している私たちこそ、耳を傾けるべきものなのだ。

UNIV

全国読書マラソン
コメント大賞

第12回 金賞受賞作品

金賞

坊ちゃん

夏目漱石 著

新潮文庫 税込価格 335 円

謝る時、正直になれなくなる。食べたいものはあるかと母に聞かれ、正直になれなくなる。講義の感想、正直になれなくなる。

就活の面接、正直になれなくなる。困ったものである。正直に言おうものなら怒られたり、母に不機嫌になられたり、先生には嫌われ面接は落とされそうである。正直者はバカをみる。坊ちゃんもバカをみた。教師という職を追われるのである。しかしながら、この作品はバカをみないよう生きよと言っているようにはどうも思われない。

心地よい文の軽さがあって、バカをみれるぐらいにはなってみなさいと言われてようだ。ちょっとバカをみてみようか。正直になってみようかと少しは思った。

UNIV